

楽歩![®] LAPPO (らっぽ)

チルト&リクライニング車椅子

楽歩(らっぽ)を快適に使用していただくために



ご使用になられる前に必ずお読みください。



カナヤママシナリー株式会社

HUMAN SOLUTION

製品のチェック

以下の点は、出荷時にチェックしていますが、搬送中のトラブルもありえますので、必ずお確かめください。

- 大車輪の車軸が、車軸受けにスムーズに出し入れできるか
- 大車輪を差し込んだ後、クイックリリースボタン（図1参照）が跳ね返るか
- 4輪とも床に接しているか
- リクライニングレバー（図2参照）を解除して、背もたれを起こしたり、折りたたむことが可能か
- チルトレバーを解除して、座面を上げたり、下げたりできるか
またはレバーをロックして任意の位置で固定できるか
- キャスターフォークはスムーズに回転するか
- 転倒防止補助輪のロックを解除することで上下の高さ調整、反転ができるか



図1

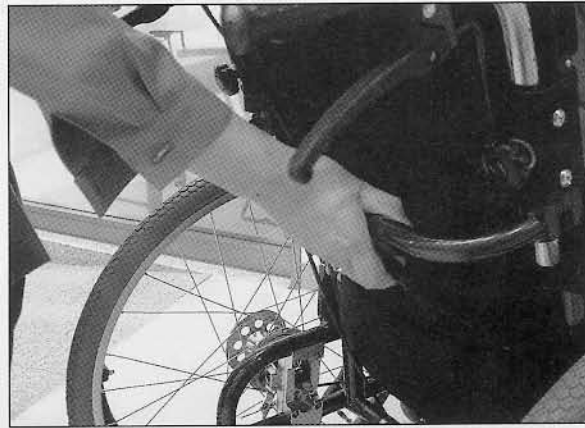


図2

本書の目次

調整は正しい順序で行われることが大切です。最初に正しく座る姿勢に調整し、次に運転目的に合ったバランスを調整します。座る姿勢が変わると車椅子のバランスも変わるので、この順序を守ってください。

安全にご使用いただくために……………2	アームレストの調整……………9
警告……………2	転倒防止補助輪の調整……………10
注意……………4	押手の調整……………10
各部の名称と機能……………5	ハイバックの着脱……………11
座面奥行き調整……………6	介助ブレーキ……………11
座面角度調整……………6	スイングアウト機構と着脱……………12
背もたれ角度と背シートの調整……………7	座面高の設定……………13
フットレストの調整……………7	分解……………14
大車輪の車軸調整……………8	メンテナンスとお手入れ……………14
タックルブレーキの調整……………8	シート類の洗浄について……………14

車椅子にブレーキをかけ、リクライニングレバーのロックを解除して、背もたれを起こし、調整の準備をします。

安全にご使用いただくために 必ずお守りください


お使いになるかたや他のかたへの危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく内容を説明してあります。


■表示内容を無視して、誤った取り扱いをした場合に生じる危険や損害の程度を説明してあります。

警告 この表示欄は、『死亡または重傷に至る可能性が想定される』内容です。

注意 この表示欄は、『傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される』内容です。

■お守りいただく内容を説明してあります。


 この表示は、してはいけない『禁止』内容です。

 この表示は、していただく『強制』内容です。

■操作のポイントを説明してあります。

P 要点 この表示は、『正しい操作のしかたや点検、調整上のポイント』内容です。

警告

 こわれかけたままや異常があるときは使用しない。


こわれたままや点検せずに異常のあるまま使用すると、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。

 改造しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車椅子を損傷させたりして事故や転倒などによるけがの恐れがあります。


また、改造や補助動力装置を装着しますと保証の適用を除外されます。

整備が必要なときは販売店にご相談ください。


 調整作業に不安があるときは調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車椅子を損傷させる恐れがあります。


必ず乗る前に点検してください。

 ホイールの脱着後、固定を確認せずに使用しない。


ホイールが外れて転倒の恐れがあります。

 落下、転落しない。

事故や転倒などによるけがの恐れがあります。

 不十分な調整状態で使用しない。


身体に無理をかけたり、褥瘡（床ずれ）などになる恐れがあります。

 車軸前後位置は身体の状態に合わせて調整をし、無理な調整はしない。

転倒によるけがの恐れがあります。

 50℃以上の高温になる場所（炎天下の4輪車内、暖房器具の近く）におかない。

高温になり、火災ややけどなどの恐れがあり、またパンクなど部品を著しく傷める恐れがあります。

 車椅子に巻き込まれやすい服装を避ける。

ホイールなどに巻き込まれ、転倒によるけがの恐れがあります。

⚠ 警告

- ⊗ 移乗時はチルトさせたままフットプレートに立ったり乗ったりしない。
車椅子を損傷させたり、転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 掃除するときなどにタイヤ、ハンドリムにワックス、油分を付けない。
ワックス等の油分が付くと、タイヤ、ハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 他の乗り物につかまりながらの移動は危険です。
車椅子を損傷させたり、転落、転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 下り坂などでのスピードの出しすぎは危険。
衝突や転倒などの事故を起こしやすく危険です。
- ⊗ タックルブレーキはスピード調整に使用しない。
タックルブレーキは停車時専用です。タックルブレーキでスピード調整するとタイヤがロックし、転倒などによるけがの恐れがあります。
スピード調整は、必ずハンドリムを使用してください。
- ⊗ 一般道以外の荒地、悪路には入らない。
車椅子を損傷させたり、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 凸凹の激しいところ（踏み切り、歩道の段差や溝）などは自力走行を避ける。
キャスターホイールがはさまったり、フレームやホイールが損傷し、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
●介助してもらいましょう。
- ⊗ 乱暴な取り扱い、無理な取り扱いをしない。
車椅子を損傷させ、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 夜間走行は避ける。
事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 滑りやすいところは自力走行を避ける。
降雪、積雪、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップして、事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ ペットを連れて使用しない。
ペットに引きずられ、衝突や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 傘をさして使用しない。
傘をさしての片手操作は不安定で危険。事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 未使用時の車椅子に幼児を近づかせない。
けがをしたり車椅子の下敷きになり、けがの恐れがあります。
- ⊗ 運動機能が低下するものを摂取したときは自力走行しない。
事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ ウィリーは十分練習するまで一人ではやらない。
転倒によるけがの恐れがあります。
- ⊗ エスカレーターの使用は避ける。
ホイールなどを巻き込まれての事故や転倒などによるけがの恐れがあります。
- ⊗ 急坂などの自力走行は避ける。
転倒などによるけがの恐れがあります。

⚠ 注意

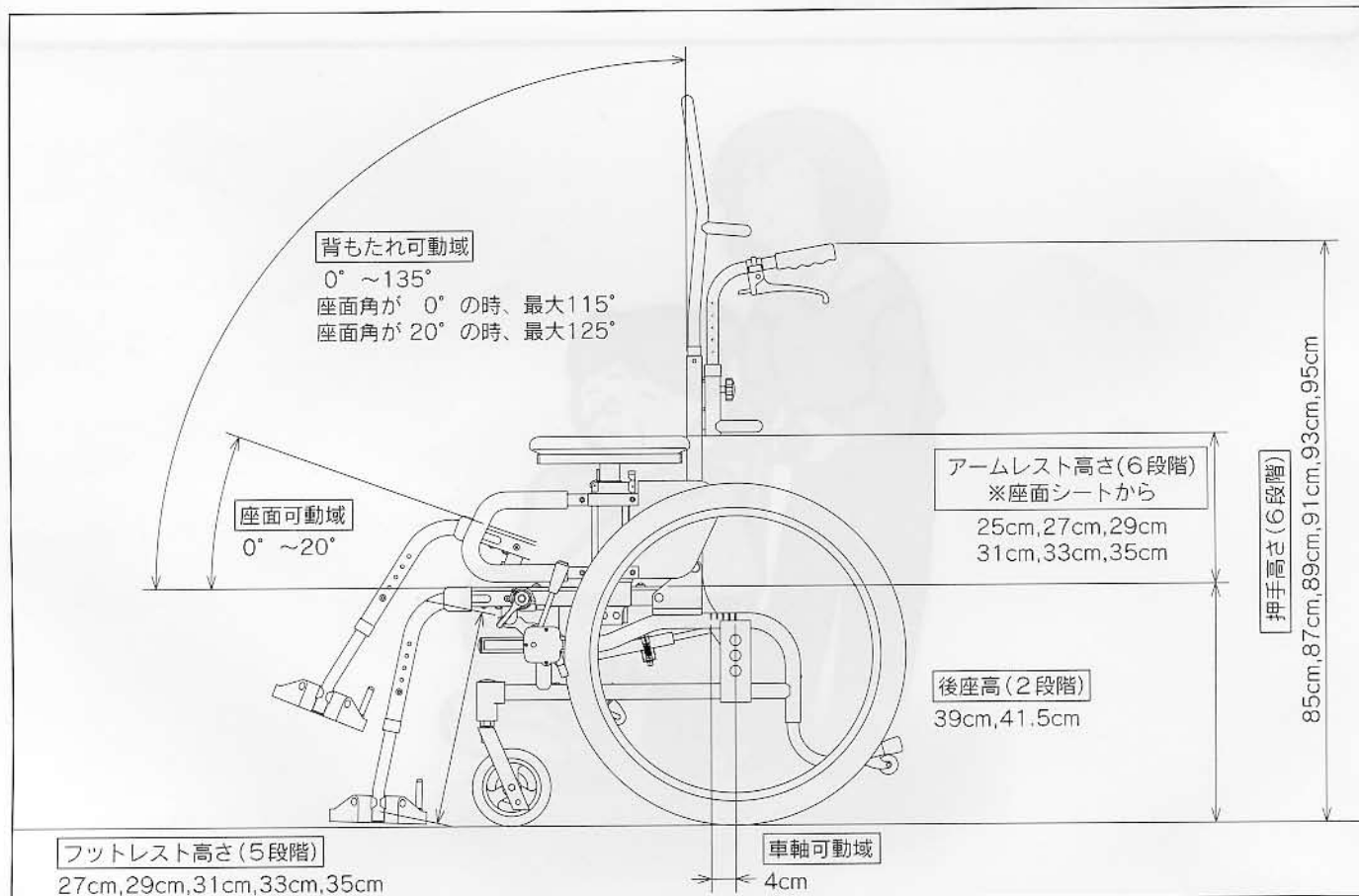
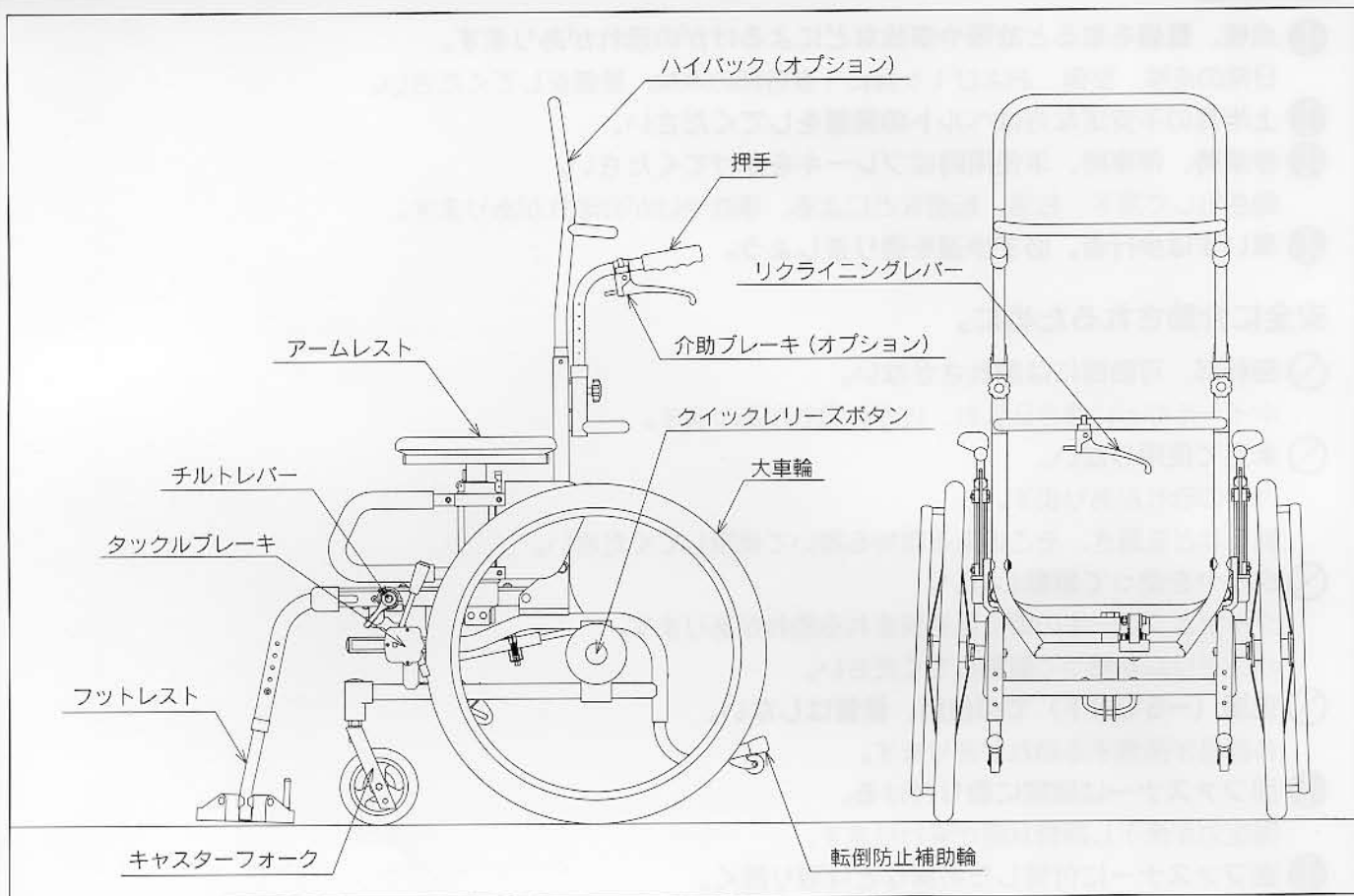
- ❗ 点検、整備を怠ると故障や事故などによるけがの恐れがあります。
日常の点検、整備、および1ヶ月に1度各部の点検、整備をしてください。
- ❗ 上半身の不安定な方はベルトの装着をしてください。
- ❗ 移乗時、停車時、未使用時はブレーキをかけてください。
動き出して落下、転落、転倒などによる、事故やけがの恐れがあります。
- ❗ 車いすは歩行者。必ず歩道を通りましょう。

安全に介助されるために。

- ⊘ 回転部、可動部には触れさせない。
ホイールなどに巻き込まれ、けがの恐れがあります。
- ⊘ 素足で使用しない。
けがの恐れがあります。
靴下などを履き、そこのある履物を履いて使用してください。
- ⊘ タイヤを使って駆動しない。
タイヤとブレーキの間に手を挟まれる恐れがあります。
ハンドリムを使って駆動してください。
- ⊘ 低温（-5℃以下）での使用、保管はしない。
各部品が損傷する恐れがあります。
- ❗ 面ファスナーは確実に取り付ける。
固定力が低下し調整状態が変わります。
- ❗ 面ファスナーに付着した糸屑などは取り除く。
固定力が低下し調整状態が変わります。



各部の名称と機能



座面の張り調整

座面シートから延長しているタテベルトが2本あります。
(図4参照)

姿勢に左右差のある方や、おしりの沈み込みは、タテベルトの張りを変えることで調整します。

これは、骨盤上部から腰部にかけてのサポートをしっかりと行うため、自分が安定感を得られるように調整を行ってください。

④ 要点

実際に車椅子を操作してみて、動きやすさや安定感の違いを感じとってください。必要であればベルトの張りや座面、背もたれの角度を変えたりしてみてください。

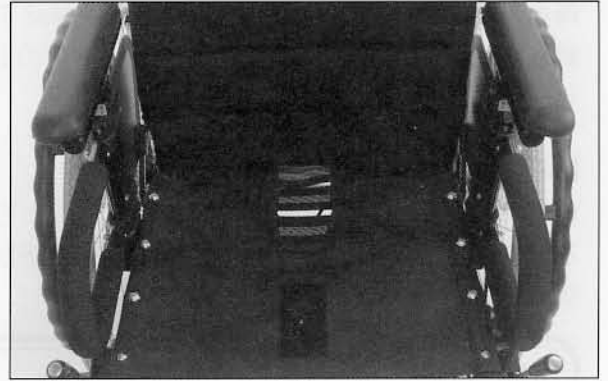


図3

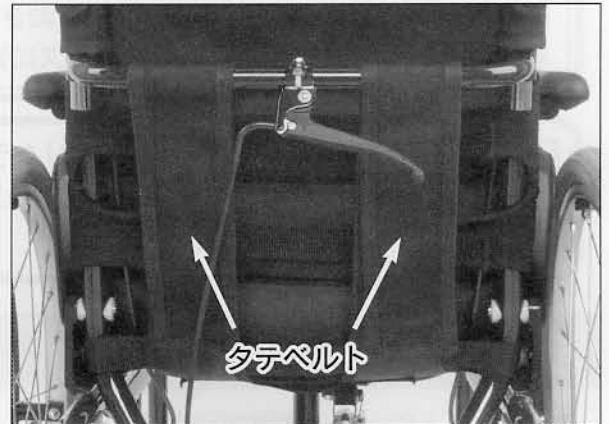


図4

座面角度の調整

車椅子に座った状態で、座面脇左にあるチルトレバーを操作し、ロックを解除します。(図5参照)

座面を上げる場合は、背中を背もたれにつけて、ゆっくりと体重をかけます。重心を少し後ろに移動させ、介助者がフットレストにつながるフレーム部を持ち上げると、ダンパーの力でゆっくりと、座面が持ち上がります。

座面を下げる場合は、逆にゆっくりと前方に、体重をかけます。(重心を前に移動させる) 体重の少ない人の場合は、介助者が押し下げてください。利用者にあつた角度が決まったら、チルトレバーを元に戻してロックさせます。



図5

■ 座面角を変更できる利点

- 操作（足こぎ・手こぎ）しやすい姿勢に合わせることができる。
- 休憩姿勢がとりやすい。
- 食卓や洗面台などへのアプローチがしやすい。
- 座面側から姿勢を整え、姿勢の安定、座位姿勢での床ずれの大きな原因となる前滑りの防止や、臀部の除圧効果が格段に高まります。

背もたれ角度と背シートの調整

背もたれにあるリクライニングレバーを解除する事によって背角度が最大125°まで可動します。背もたれ後ろにあるベルトを利用者の背中の中にあわせてベルトの張り具合を調整し、下のベルトから順に張り心地の良い状態にします。(図6参照)

■ハイバックセットのベルト調整

背もたれの張り調整以外にハイバックセットも張り調整ができます。3本のベルトを背もたれ同様に下から順に張り調整していきます。

■背もたれ調整による利点

適切な利用者の背中の中の湾曲に沿った調整により、骨盤をしっかり立て、体幹、上肢、頭部が動きやすくなると、食事や作業、会話などがスムーズに進みます。

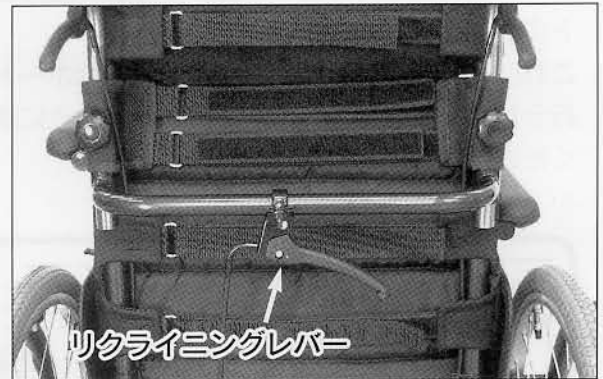


図6

▲注意

- 背もたれを緩めすぎてリクライニングレバーとの接触到に気をつけてください。
- リクライニングの際には急激に倒れたりすることもありますのでくれぐれも注意してお取り扱いください。

フットレストの調整

フットレストは上下の調整が可能です。フットレストを上下に動かし5段階のひとつに固定します。(出荷時の設定は中央の位置です) 大腿前部がシートに支えられ、足がフットレストに軽く支えられる高さに合わせます。(図7、8参照)

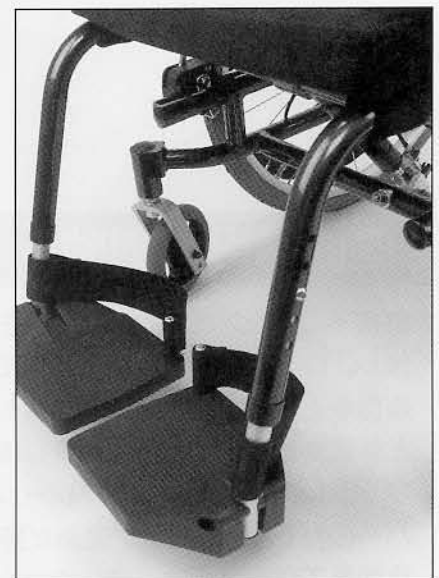


図7

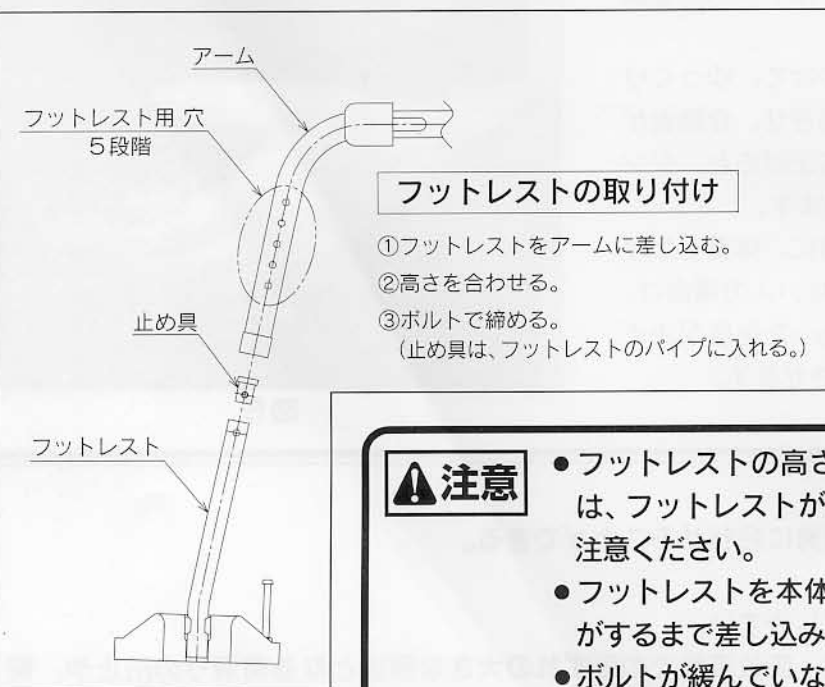


図8

※調整には以下の工具をご用意ください。
六角レンチ(4mm)

▲注意

- フットレストの高さ(上から1、2番目の穴)に調整した際は、フットレストが地に着きませんので前方への転倒にはご注意ください。
- フットレストを本体フレームに装着するときは、カチッと音がするまで差し込み、固定がされているか確認してください。
- ボルトが緩んでいないか確認してください。
- ベルトが外れていると足を滑らせてしまいますのでご注意ください。

大車輪の車軸調整

座る姿勢が決まったら、車椅子のバランスをとります。＜※調整時は一度車椅子から降りてください＞

車軸受けプレート裏面の固定ネジを緩めて、目盛りに合わせて前後にスライド移動させて調整します。(図9参照)

このとき、いちばん前に移動すると、重心位置に近くなり軽い力で操作できる状態になります。しかし、そのままでは後ろに転倒する恐れがでてきますので、利用者の状態に合わせて、車軸受けプレートを後方に移動させるか、転倒防止補助輪をお使いください。

※調整には以下の工具をご用意ください。

六角レンチ(5mm)

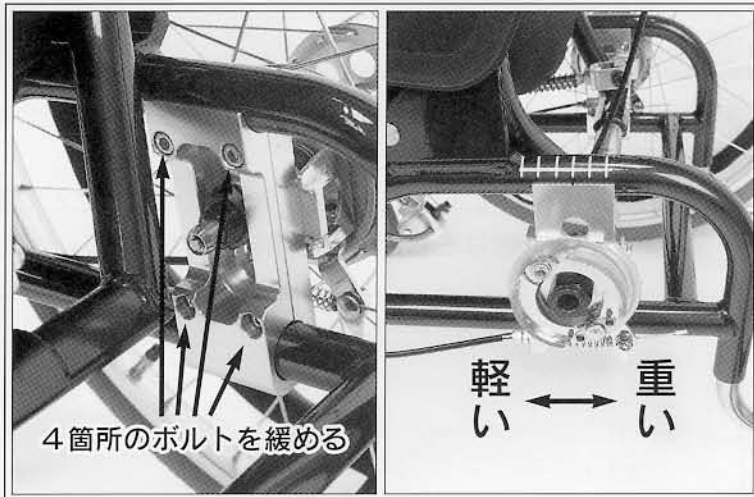


図9

④要点

車輪を前へ出すことにより、車椅子を操作するハンドリムが車輪に伴って前方へくる為、こぎ易くなります。そして、車椅子自体の全長が短くなる為、小回りが効くようになります。あまり腕力の無い人でも簡単に操作ができるようになります。

⚠注意

- 車軸の移動量が大きいとブレーキの調整代が不足しますので、タックルブレーキの取付位置の移動が必要です。
- 車軸位置を前方にするとウィリーしやすくなりますので身体の状態に合わせて調整してください。
- ホイールが完全に固定されていることを確認してください。
- 左右の目盛位置がずれていますと、直進性が悪くなりますのでご注意ください。
- 介助ブレーキの効きが良いか確認してください。
- 軸受けのナットが緩んでいないか確認してください。
- 介助ブレーキ用ワイヤーが緩んでいないか注意してください。
- ワイヤーの調整時に手をはさまぬよう注意してください。

タックルブレーキの調整

タックルブレーキは、本体裏面の固定ネジを緩めてから、ブレーキ本体を移動(スライド)させて調整します。(図10参照)ブレーキをかける目安は、かけたときに5mmほど、タイヤにくい込むようにします。決まったらネジを締め付けます。

※調整には以下の工具をご用意ください。

スパナ(8mm)

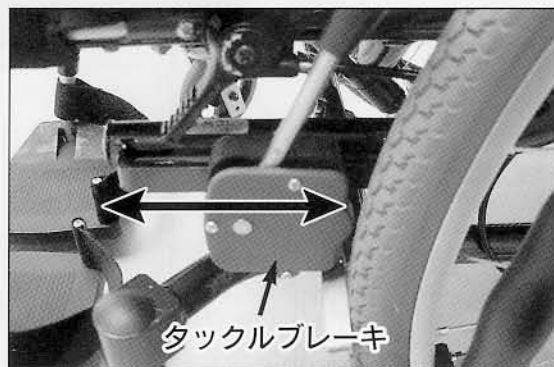


図10

⚠注意

- ブレーキの調整の際には手をはさまぬようご注意ください。
- タイヤには十分空気が入っていることを確認してください。
- 走行の際にはブレーキのロックを必ず解除してください。
- タイヤのロック以外の目的でブレーキを使用しないでください。

アームレストの調整

アームレストは、肘掛部下の前側にあるレバーを引き上げるとロックし、引き下げると解除になりアームレスト本体を取り外す事ができます。

高さ調整は肘掛部下の後側にあるレバーを操作することで調整ができます。

再度、取り付けの際は左右の肘掛を確認してください。(図11、12、13参照)

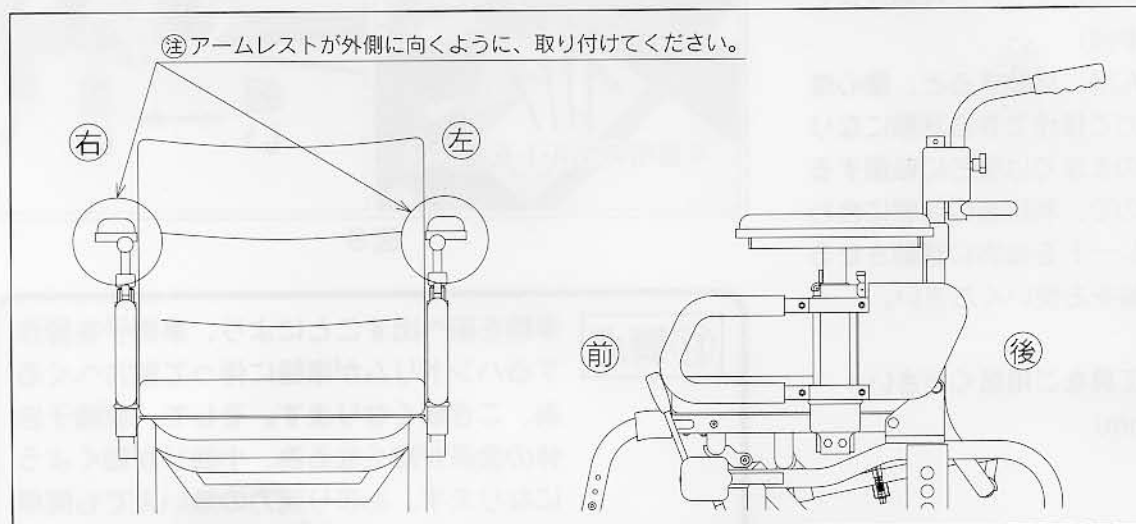


図11

アームレストの脱着

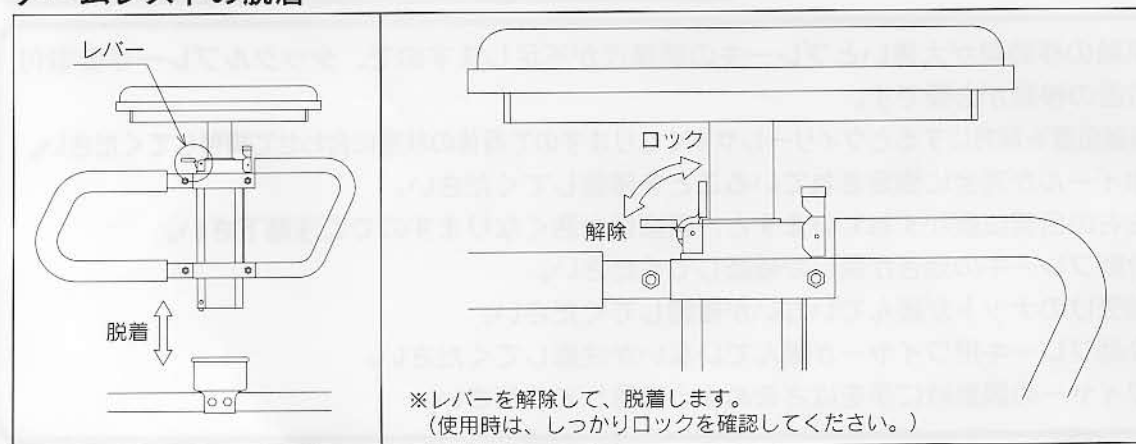


図12

アームレストの高さ調整

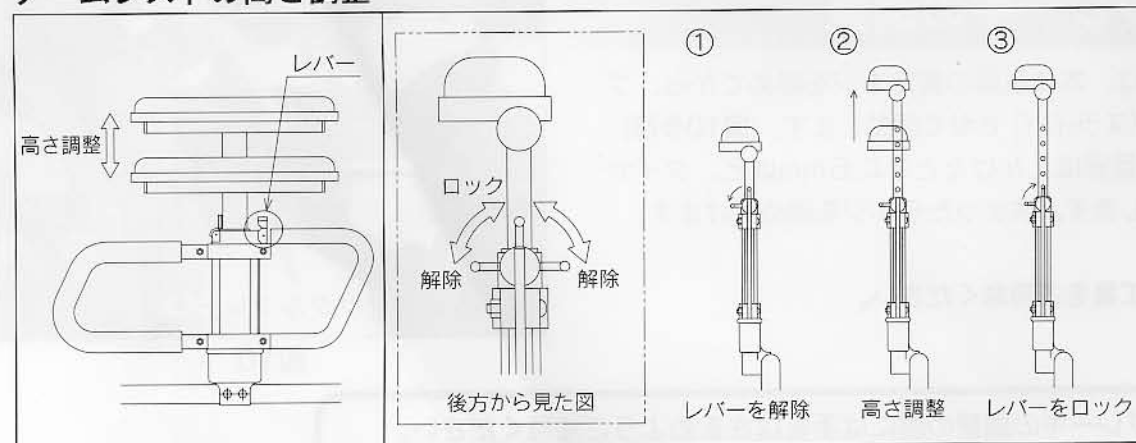


図13



- ロック用レバーに手提げ袋等を吊り下げないでください。
- 左右の肘掛を確認してください。
- テーブルの装着はできません。

転倒防止補助輪の調整

補助輪の高さは、ロックボタンを押し込んでロックを解除し、上下に移動させて調整します。

いちばん下まで伸ばすと、より確実に後方への転倒を防ぎますが、段差乗り越えの際、キャストア上げが制限されますので、ご注意ください。

補助輪を回転させることで段差が越えやすくなりますが、元に戻す事を忘れないようご注意ください。

(図14、15参照)

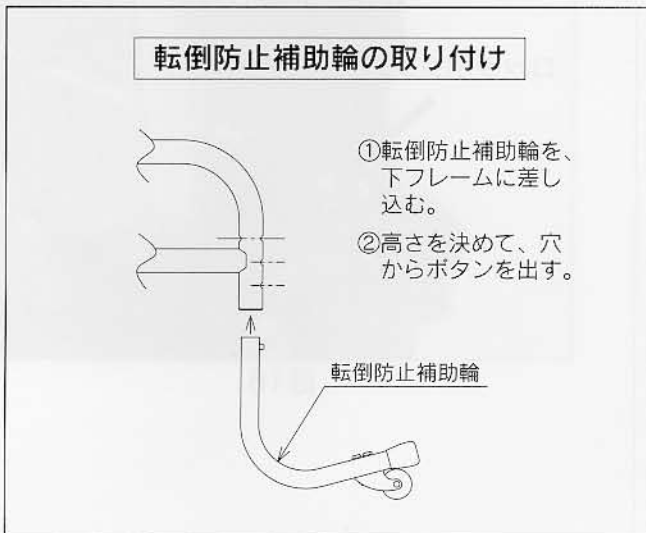


図14

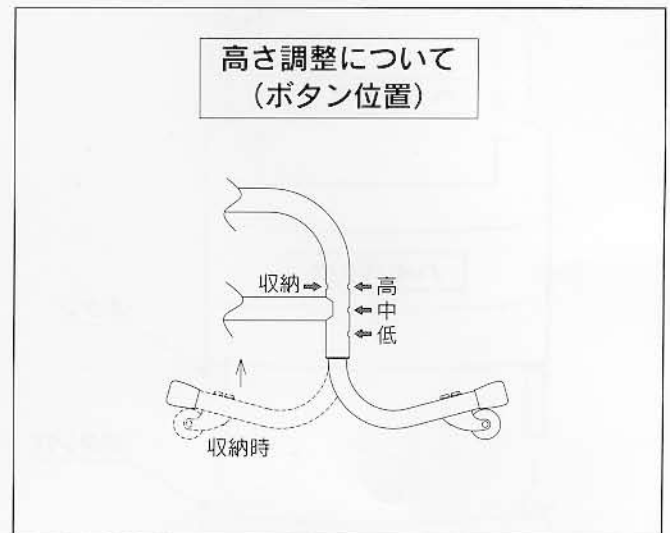


図15



注意

- ロックボタンが出ているか確認してください。
- 補助輪のボルトが緩んでいないか確認してください。

押手の調整

背もたれに取り付けられた押手の下にある固定ハンドルを緩めると上下に高さの調整ができます。

目盛ラインに合わせてしっかりロックします。(図16参照)

内側にスイングしますと折りたたむ事ができますし、移動の際にもじゃまになりません。

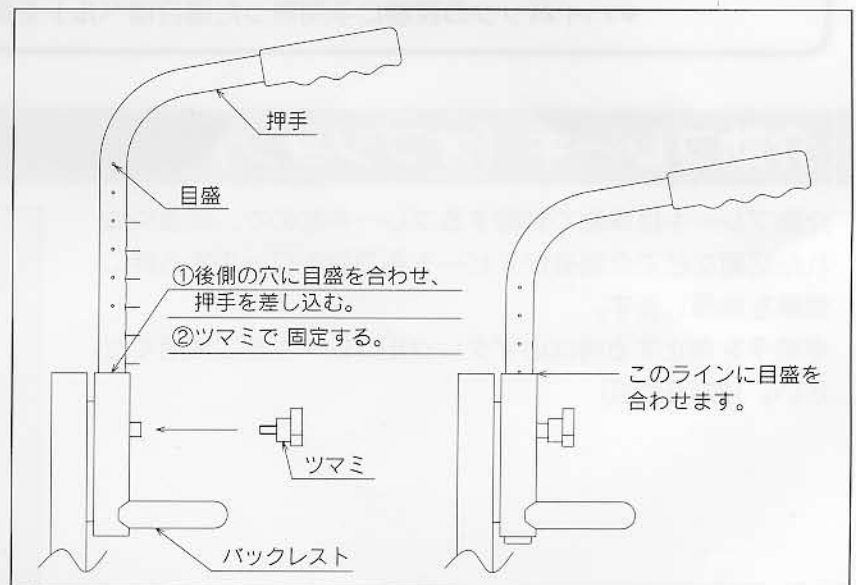


図16



注意

- 押手が固定されているか確認してください。

ハイバックの着脱（オプション）

ハイバックセットを装着する場合、ハイバックパーツを背もたれ部に差し込み（図17参照）、ロックボタンが固定用穴から出てくればロック完了です。（図18参照）ヘッドレストは、利用する方にあわせて位置を調整します。

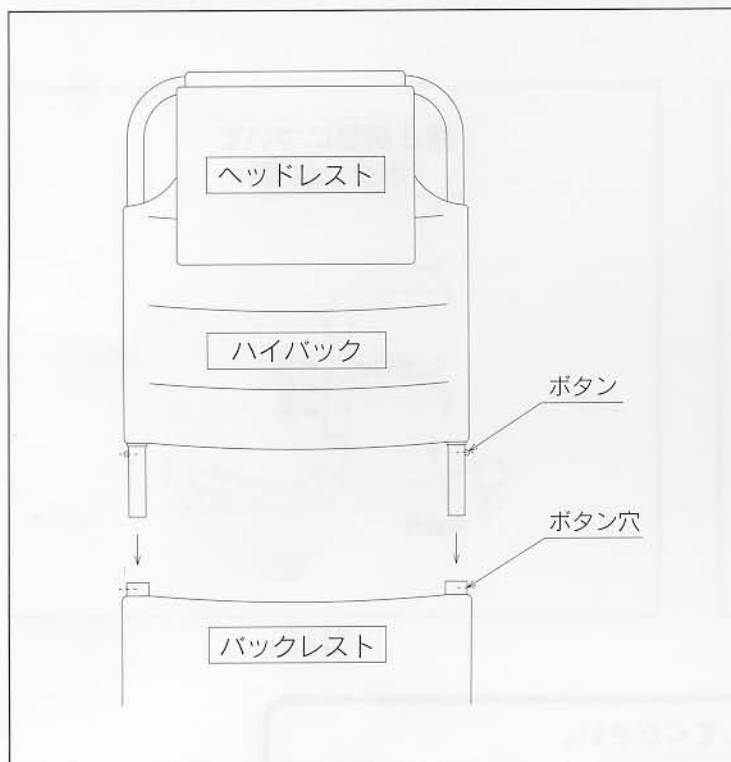


図17



図18



- ピンが出ているか確認してください。
- ピンが出ていないと簡単にハイバックが外れますのでご注意ください。
- ハイバックの装着に手間取った場合はベルトを緩めてみてください。

介助ブレーキ（オプション）

介助ブレーキは車軸で制御するブレーキなので、坂道やぬれた路面などで介助者がスピードをコントロールする時に効果を発揮します。

車椅子を停止する時は必ずタックルブレーキをご使用ください。（図19参照）



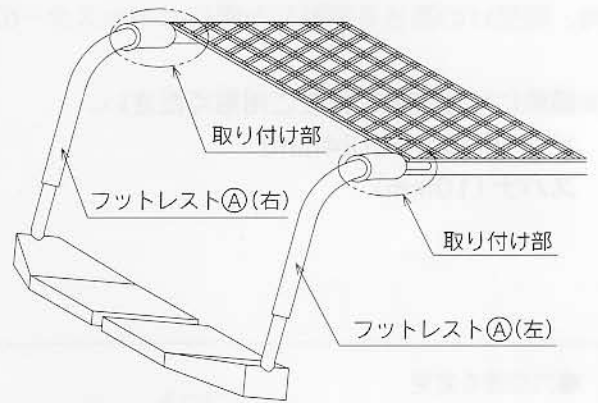
図19

スイングアウト機構と着脱

フットレスト部はスイングアウトして脱着することができますので、トイレやベッドへの移乗の際、アプローチが容易になります。フットレストのフレーム部分を前方へ引き抜くように引っ張るとロックが解除され、フットレスト部が開閉します。(図20参照)

さらにフットレスト部を取り外す事ができます。取り付けは取り外しの逆の順序で行ってください。

④P 要点 スイングアウト機能はフットレストが開閉し、また取り外しができる為、座面前の空間ができれば前移乗ができます。また、健足側のフットレストを取り外すことにより、足を動かすスペースが増えます。



※図20のように操作してください。
(右の場合は、対称の操作になります。)

フットレスト着脱 (左の場合)

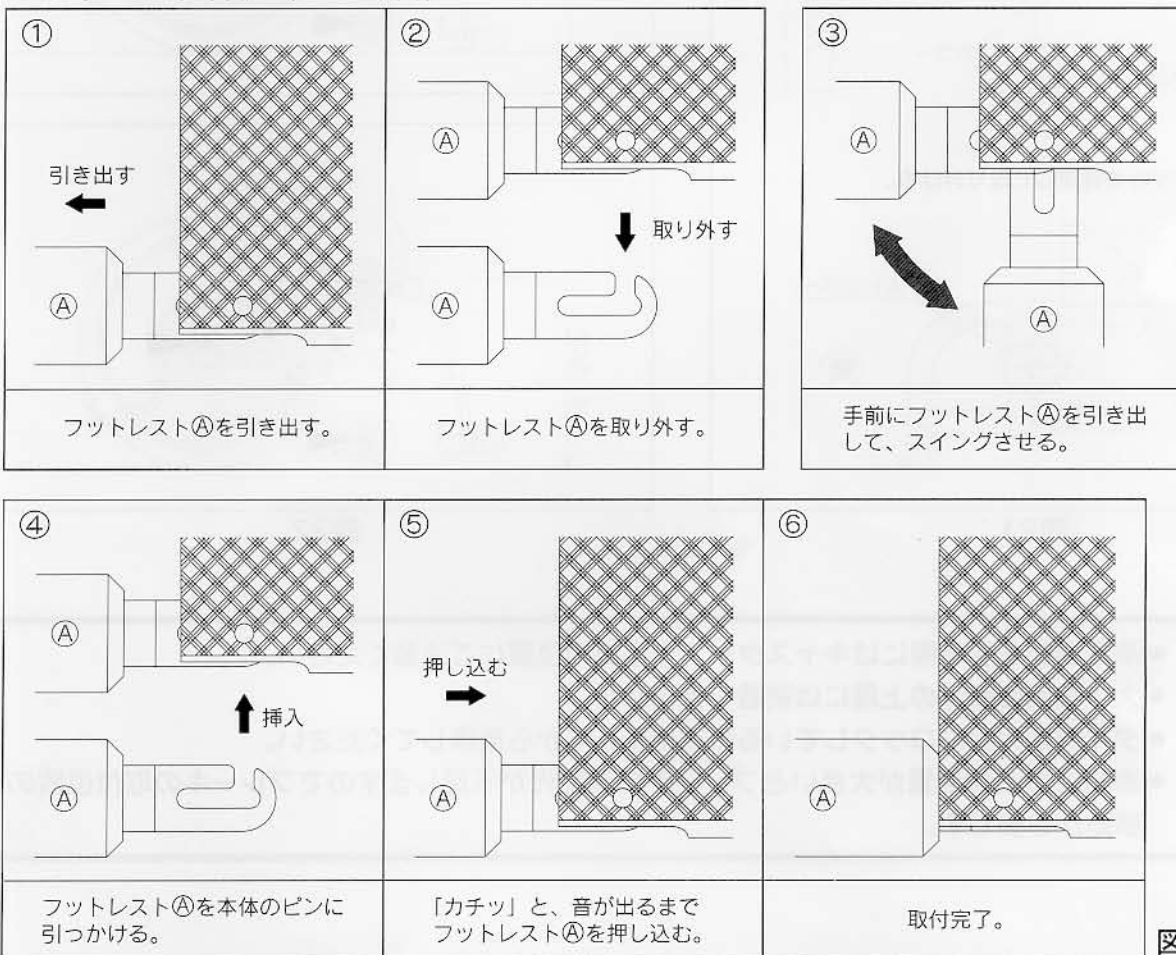


図20

⚠ 注意

- スイング部の装着が正しくされていないと破損の恐れがありますので確認をしてください。
- スイング使用時は、フットレストは取り外す事はできません。①の状態に一旦戻し、取り外してください。

座面高の設定

座面の高さは2段階に調整することができます。

調整の順序は、まずタイヤを取り外し、車軸受けプレート裏面のボルトを取り外します。

次にプレートから車軸受けのナットを緩め取り外します。(図21参照)

取り外した車軸受けを車軸受けプレートの穴(3箇所)の中央か下の穴のいずれかに装着します。(出荷時は中央の穴に装着されています)

尚、軸受けの高さを調整した際にはキャスターの軸の調整が必要になります。(図22参照)

※調整には以下の工具をご用意ください。

ソケットレンチ(24mm)

スパナ(10mm)

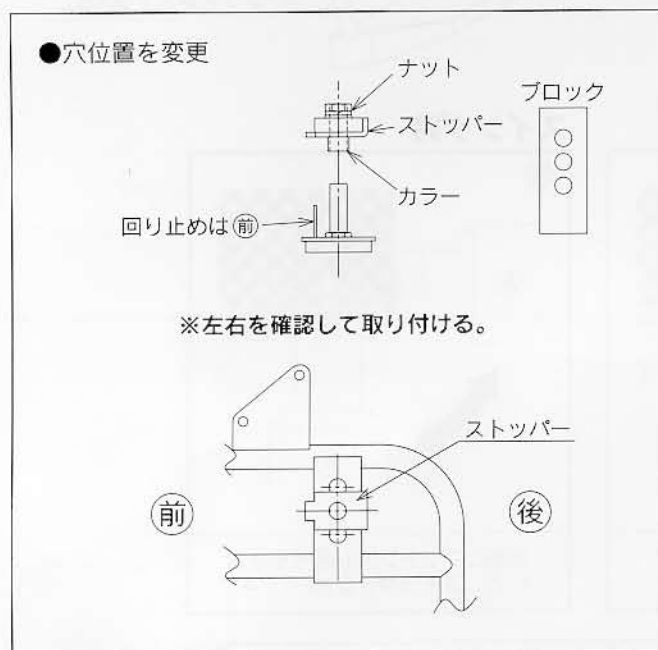


図21

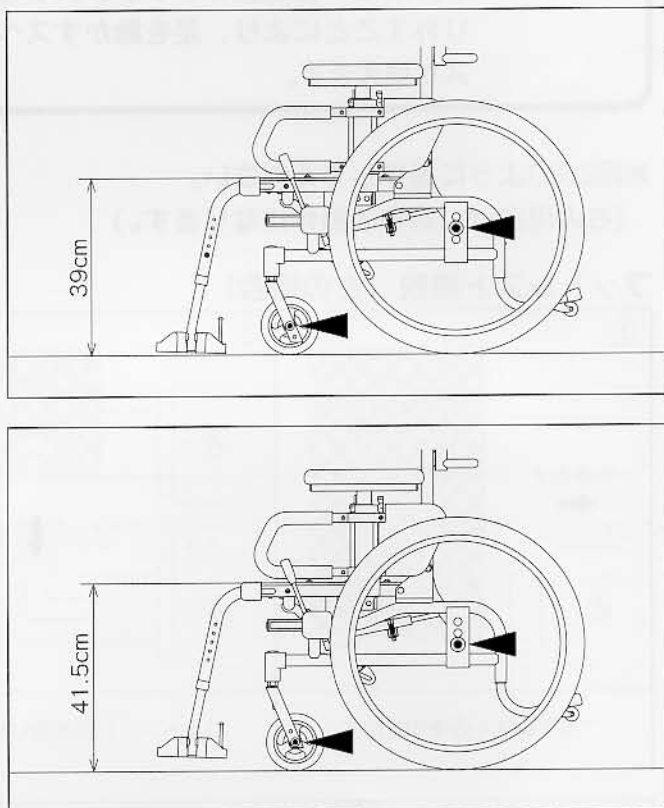


図22

注意

- 高さ調整をする際にはキャスター、大車輪の位置にご注意ください。
- 大車輪用軸受けの上段には装着できません。
- タイヤが完全にロックしているのを確認してから乗車してください。
- 車軸位置の移動量が大きいとブレーキの調整代が不足しますのでブレーキの取付位置の移動が必要です。

分解

楽歩（車椅子）を自動車などに積み込むときは、ハイバックを取り外し、座面を水平に戻して、アームレストをはずしてから背もたれを前に倒し、大車輪をはずします。着脱式大車輪は、車輪中心にあるクイックリリースボタンを押しながら手前に引くと、はずれます。（図23参照）

大車輪を取り付けるときは、ボタンを押したまま、車軸をしっかり奥まで差し込みます。ボタンをはなして、車輪がしっかり納まっているかどうか、車輪を外側にひっぱって確認してください。

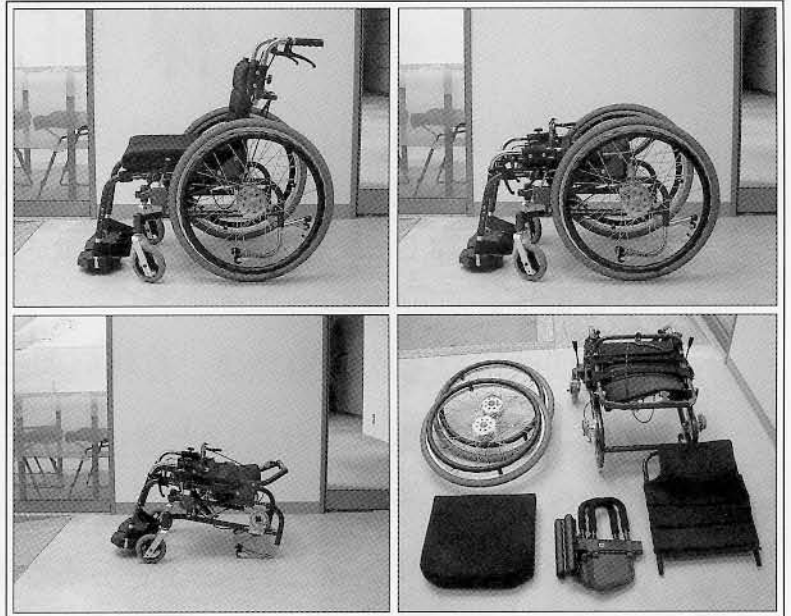


図23

④要点

楽歩（車椅子）は、部品を取り外すことで、軽量・コンパクトになり、積み込みなどが楽になります。しかしその反面、部品を紛失する可能性がありますので、その点には十分ご注意ください。

メンテナンスとお手入れ

- 大車輪の車軸に、油をさす。車輪をはずし車軸に2、3滴落とす。雨や雪でぬれたとき、車輪を長くはずさなかった時などは、回数を増やす。
- 標準タイヤの空気圧は、4.5kg圧にする。（バルブは自転車と同じタイプ）
- キャスターホイールとホークのスキ間に溜まる、ほこりや髪の毛の掃除。キャスターのアタッチメントを傷める場合があります。ナットを緩め、ボルトを引き抜きキャスターをはずす。キャスターとフォークの間を掃除し、部品を元に戻しネジを締める。
- メカロック（リクライニング）のシャフト部の油、ほこりを拭き取ってください。
- フリーロック（チルト）のシャフト部の油、ほこりを拭き取ってください。
- 介助用ブレーキのワイヤーが緩んでいないか確認してください。
- リクライニング、チルトのロックが効きにくい場合はワイヤーにグリス等をさします。
- 油のさしすぎには十分注意してください。ほこり、ごみ等の付着の原因となります。

シート類の洗浄について

シート類が汚れた場合は、お湯で薄めた中性洗剤で汚れをよく落とし、固く絞った蒸しタオルで洗剤分をよく拭き取り、カラ拭きしてください。（吸水性のある布でやさしく拭き取ることがポイントです）

水洗いをする場合は中性洗剤を使用してください。

塩素系漂白剤による漂白はできません。

洗剤が残らないようにすすぎを十分し、日陰で吊り干しにしてください。